

相手の気持ちを考えて行動できる児童生徒の育成を図る小中連携

ねがい

〈目的〉

あいさつ運動やボランティア活動等の様々な活動を通して、基本的な生活習慣を身に付け、相手の気持ちを考えて行動できる児童生徒を育成します。

〈内容〉

つながり

● 児童会によるあいさつ運動

毎週水曜日の朝、児童会役員が自主的に校門近くのピロティに立ち、あいさつ運動をしています。そして気持ちの良いあいさつができた児童の名前を給食の時間に放送し意欲化を図っています。全校生が、一度は名前を呼ばれるようにがんばっています。

県教委が進めている「さぬきっ子あいさつ運動」と連携して、『おはっぴー』も参加しました。



【おはっぴーと一緒にあいさつ運動】

● 「花いっぱい活動」ボランティア

同じ校区内の神前小学校の児童や天王中学校、寒川高校の生徒、地域ボランティアが参加し、近隣のJR神前駅周辺の「花いっぱい活動」に取り組みました。小、中、高、地域の人たちを含めたグループ編成を行ったので、様々な場面で交流を深めることができました。この日の活動だけでなく、プランターの水やりや除草を定期的に行っているのので、「みんなで地域のために」という心が児童や生徒に育っています。



【中学生と一緒に花の植え替え】

● 異校種間交流

今年度、中学校の教員は2つの小学校でそれぞれ社会の授業を行い、小学校の教員は中学校で数学の授業をTTで実施しました。中学校の全教職員で生徒にかかわる指導体制づくり、小中による授業規律の違いや生活習慣の実態を相互に理解することができました。授業終了後には、管理職を交え、小中連携の課題や今後の取組を協議しました。

高まり

〈成果〉

校区内の児童や生徒の実態を把握し課題を共有することができ、9年間を通して「育てたい児童生徒像」を明確にすることができました。今年度は、育てたい児童生徒像に迫る実践をそれぞれの小中学校で行ってきたので、今後は児童生徒が交流できる実践に取り組むたいと考えています。次年度は、さぬき南中学校になるため、さらに積極的な小中連携が必要になってきます。